

第二部 稚内市観光振興計画

第V章 稚内市の観光振興の方向

1 稚内市観光振興計画の目標 ー一人ひとりの観光客を迎え入れる稚内観光地づくりー

稚内における観光は、観光入込客数が減少基調にあること、宗谷岬やノシャップ岬以外の観光ポイントを訪れる観光客が少ないこと、如何にして魅力あるイベントを創出するか、冬季の観光客を如何にして誘致するか、札幌や旭川からの時間距離の大きさをどのように解消するかなどの課題を有しているのが現状である。

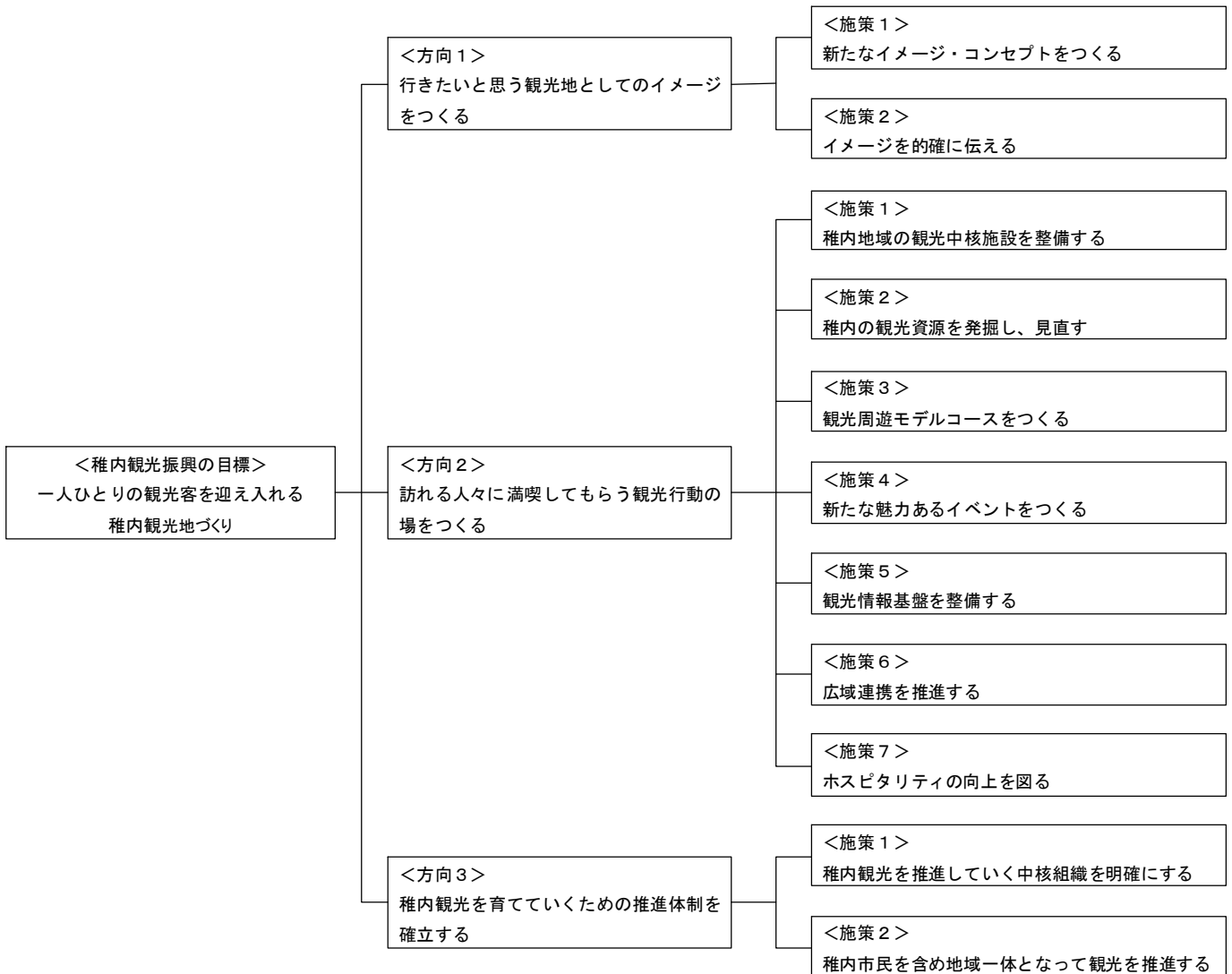
さらに、第一部で整理したように、稚内観光を再認識するとともに、自然景観や歴史文化等の観光資源の見直しをはじめ、数多く訪れている個人観光客が十分に稚内を堪能できる仕組みを如何に構築していくかといった課題がある。

このため、本計画においては、住民、商工業者、行政のすべての地域住民が一体となって、稚内を訪れる観光客を温かく迎え、団体観光客だけでなく、個人観光客を含めたすべての観光客が稚内を十分に堪能できる観光地をつくっていくことを目標とする。

2. 稚内観光の振興の方向

第1部にて整理した稚内観光の振興に向けた基本的考え方に基づき、今後の稚内観光の振興方向について整理すると以下のとおりとなる。

稚内観光の振興の方向



(方向1) 行きたいと思う観光地としてのイメージをつくる

(施策1) 新たなイメージ・コンセプトをつくる

稚内を訪れる観光客の多くが、稚内に対して「最北端」、「宗谷岬」をイメージしており、さらに、「寒い」、「寂しい」、「暗い」といった言葉を連想する観光客が少なくない。このため、本計画では、すでに稚内のイメージとして定着している「最北端」を活かし、かつ、そこに広がる自然と、その厳しい環境の中で人々が育ててきた地域の歴史とが織り成す奥行きをイメージしてもらうことを基本コンセプトとし、新たに「最北の自然と歴史」を強調していくものとする。

1)国内観光客向けイメージ・コンセプト戦略

「最北の自然と歴史」を基本イメージ・コンセプトとして、国内観光客向けイメージ戦略と外国人観光客向けイメージ戦略を構築することが必要である。

国内観光客向けには、基本である我が国「最北の自然と歴史」をそのままイメージ・コンセプトの中心に据える。稚内が有するわが国本土最北の自然、景観、歴史、風土はわが国唯一のものであり、また、すでに定着している「最北」イメージを活かしたPR、広報活動を展開することが必要である。

2)外国人観光客向けイメージ・コンセプト戦略

・台湾、香港等アジア向けイメージ・コンセプト

稚内を訪れる外国人観光客の多くは、台湾、香港等のアジアからの観光客であり、今後とも積極的にアジアからの観光客の誘致に取り組むことが必要である。このため、これらのアジア諸国の観光客にとって憧れである北海道の、さらにその北海道の最北端であることのイメージを形成するために、「極東最北端の自然と文化」をイメージ・コンセプトの中心としたPR、広報活動を展開することが必要である。

・ロシア向けイメージ・コンセプト

アジアについて多い外国人観光客は、ロシアである。ロシアからみると稚内は最北端のイメージではないため、ロシアとの文化の違いや商品が溢れる日本のイメージが強いものと考えられることから、日本食など日本の豊かな文化を前面に出したイメージ戦略を構築することが必要である。

(施策2) イメージを的確に伝える

稚内により多くの観光客に来てもらうためには、稚内の新たなイメージ・コンセプトである「最北の自然と歴史」のイメージが的確にこれから観光をしようとする人々に伝えることが重要である。このためには、国内や海外のテレビ・ラジオといったマスメディアを活用したり、キャラバンやキャンペーンでその場の人々に集中的に訴えるポスターで伝えたり、さらにはインターネットなど、それぞれのメディアを適切に活用することが必要である。

(方向2) 訪れる人々に満喫してもらう観光行動の場をつくる

稚内市の今後の観光振興にあたっては、稚内を訪れる観光客に十分に稚内観光を堪能してもらうために何をどのように整備していくかを検討し、整理することが必要である。

稚内を訪れた観光客に対する意識調査では、稚内の自然や景観については、満足しているものの、天候しだいでは利尻富士が見れない場合もあり、その場合の稚内観光の楽しみ方がわからない状況が見られているほか、観光情報が乏しい、見所が少ないなどの意見が比較的多くなっているなど、観光客が十分に稚内を満喫してもらうための整備課題が多い状況が把握されている。

このため、稚内の観光情報を集約し提供するための中核機能の整備や観光客の行動パターンに対応した観光メニューを整備するなど、稚内を訪れた観光客

が稚内観光を十分に楽しめるための整備を図ることに加え、稚内までの時間距離の大きさが稚内に行くという行動の制約となっている部分も大きいことから、稚内までの移動時間の楽しみも含めた整備が必要である。

（施策1）稚内地域の観光中核施設を整備する

多くの観光客は、ノシャップ岬や宗谷岬は訪問するが、それ以外の観光ポイントに訪問する観光客は少なく、稚内を訪れた観光客の稚内観光に対する評価も自然景観に対する評価にとどまっており、その良否も天候に左右されているのが現状である。

また、観光客からも立ち寄りポイントに関する情報や稚内のことをもっと知りたいといったニーズもあることから、そもそも稚内にはどのような歴史があるのか、どこに何があり、どこに行けばいいのかといった観光客にとって知りたい情報が少ない状況が把握されている。

逆に言えば、稚内の観光ポイントを回ることによって初めて稚内の歴史・文化の一端に触れることができるのが現状である。

このため、稚内に訪れた観光客に、まずは稚内にどのような自然・歴史・文化があり、どこに行けばいいのかの情報を総合的に提供するための機能を有する施設として「最北の自然と歴史歩み館（仮称）」を整備する。

また、従来から地域住民や観光客が訪れている稚内市ノシャップ寒流水族館や青少年科学館といった既存の観光、文化施設は、老朽化が進んでいることから、施設更新等の対策を図る。

（施策2）稚内の観光資源を発掘し、見直す

稚内市の観光資源は、利尻富士の眺望、最北のイメージを形成する海岸線や樺太を眺望する景観、周氷河地形といった自然景観や風力発電や大規模太陽光発電などの景観のほか、稚内港北防波堤ドームや、旧樺太への玄関口としての歴史、間宮林蔵、松浦武四郎、宮沢賢治などの歴史的人物に関わる歴史、戦時中の歴史など、多くの歴史・文化に関わる史跡、碑等が数多く点在している。

こうした既存施設や歴史、文化を観光客に観てもらい、知ってもらうための演出を見直すことが必要であるとともに、観光客に稚内をもっと知ってもらうための新たな資源の発掘に継続的に取り組むことが必要である。

一方、稚内市では、気候的特性等を活かし、風力、太陽光、雪氷等の自然エネルギーを活用した産業振興の取組みが積極的に行われており、風力発電の規模や太陽光発電施設の規模等はわが国最大級のものである。

こうした新エネルギーに対する先導的な取組みは、地域産業の振興にとどまらず、全国からの視察客等の誘致をもたらすなど観光振興の観点からも重要な取組みであり、さらなる取組みを推進することは、新たな稚内市のまちづくりにおいても重要な役割を果たすものである。

（施策3）観光周遊モデルコースをつくる

稚内での観光行動は、こうした利用交通機関による制約を受ける。稚内を訪れる個人観光客の多くは、自宅から自家用車、バイクを利用するケースが多いが、その他では、稚内空港や千歳空港、旭川空港、最寄JR駅などからレンタカーを利用する手段となる。

しかし、航空機、JR、バスを利用して稚内に訪れる場合には、稚内での移動手段が他にないために観光行動に制約が生じることになり、個人観光客にとってはこれらの交通機関を利用しづらい状況にある。

また、自家用車等の移動手段を有している場合でも数多くの観光ポイントを訪れているわけではなく、ノシャップ岬や宗谷岬といった限定された行動にとどまっているのが現状である。

このため、より多くの観光客に、より多くの観光ポイントに立ち寄ってもらうためには、稚内の観光ポイントや移動ルートに関する情報提供を図ることに加え、様々な行動シチュエーションを想定したモデルコースを設定し、観光客に提供することが効果的である。

（施策4）新たな魅力あるイベントをつくる

稚内市においては、稚内市や民間が主催する各種イベントが開催されている。道内外からの観光客が参加し、経年的に開催されている主なイベントとしては、冬季に開催されている南極ハイランドや全国犬ぞり稚内大会、夏季に開催されているおおなご&フードフェスタ in WAKKANAI や稚内みなと南極まつりなどが開催されている。

しかし、観光客の入込状況からも把握されるように参加者は減少基調にあるのが現状である。観光客に対する意識調査では、当日稚内に来て初めてイベントが開催されているのを知ったといった意見がみられているほか、南極ハイランドで開催されている犬ぞり、馬そり、スノーモービル等の体験は稚内独自の魅力あるイベントと考えられるが、団体観光客に対しては、旅行代理店を通じてイベントへの参加が可能となっているが、個人観光客にとっては、どこで開催され、どうしたら参加できるのかといった情報がほとんどないのが現状である。このように事前情報の提供が十分ではないことも課題として挙げられるが、観光客にとって魅力あるイベントとなっていないこともその理由として考えられる。

このため、観光客に対する情報提供の充実はもとより、観光客にとって魅力ある新たなイベントを創出することが必要である。

（施策5）観光情報基盤を整備する

稚内を訪れた観光客が稚内の見所、歴史、文化等に関する情報を得るととも

に、地元と観光客とのコミュニケーションの場となるような「最北の自然と歴史歩み館（仮称）」の整備が必要であるとともに、以下にあげる各種提供ツールの整備、充実が不可欠である。

1) 観光 Wi-Fi（観光・地域情報）の整備

稚内を訪れた観光客がその日の立ち寄り場所、食事場所、土産購入場所などを、その場で簡単に調べられるための情報提供機能を整備することが必要である。このためには、観光 Wi-Fi（観光・地域情報）の整備を推進することが必要である。

観光客に対するアンケート調査結果でも明らかなように、この観光 Wi-Fi に対するニーズが高い状況が把握されているとともに、外国人観光客においてもすでに無線 LAN が使用可能な携帯機器を携帯し、インターネット情報が重要な情報源になっていることも明らかとなっている。

2) パンフレット、サイン、案内板、看板機能の整備充実

稚内を訪れる個人観光客の多くが自家用車、レンタカー、バイクの利用者である。観光客に対するアンケート調査において、こうした観光客からパンフレット情報や観光ポイントに設置されている案内板や看板に対する情報のわかりにくさが指摘されている。

（施策 6）広域連携を推進する

札幌、旭川、網走方面から稚内までの移動客が多い反面、移動に係る時間距離が観光客の行動制約になっている。こうした観光客に対して稚内までの楽しめる移動イメージをもってもらうための情報を構築し、発信することが必要である。

このためには、「札幌からオロロンラインを通して稚内へ」、「旭川から国道 40 号を通して稚内へ」、「網走からオホーツクラインを通して稚内へ」を誘発するために、各コースを通して稚内までの移動途中の立ち寄り場所、見所等を紹介するなどの工夫が必要である。

（施策 7）ホスピタリティの向上を図る

観光客に稚内観光を楽しんでもらい、満足してもらうためには、観光客が利用する施設、交通機関、各種サービス、さらには人との会話など、稚内で過ごす時間、空間すべてに配慮することが必要である。このためには、直接的に観光に携わる宿泊施設や飲食、土産店、交通機関のみならず、市民を含めておもてなしの精神を持つことが不可欠である。

（方向3）稚内観光を育てていくための推進体制を確立する

（施策1）稚内観光を推進していく中核組織を明確にする

稚内において観光振興を図っていくためには、新たな観光中核施設の運営、観光周遊モデルコースやイベントの企画、運営機能、観光 Wi-Fi を中心にした情報収集発信機能、事業者間の具体的な連携事業機能など、これまでとは異なる新たな取り組みが必要となる。

今後、稚内観光の振興に向けた各種取り組みを推進していくためには、こうした役割を担い、中心となって推進していくための組織を明確にする、あるいは新たに構築することが必要である。

また、稚内観光を推進していくためには、稚内市だけでなく、宗谷支庁管内の市町村や道北地域やオホーツク地域と連携した取り組みが不可欠であることから、こうした広域的な連携を積極的に推進していくことが必要である。

（施策2）稚内市民を含め地域一体となって観光を推進する

稚内には地域の人々が気付いていない魅力があるにもかかわらず、地域の人々の認識には大きな誤解や勘違いがあるために、出口が見えない迷路に入り込んでいるのかもしれないことや、稚内観光の最大の課題は、個々の観光事業ではなく、地域観光振興に取り組む地域の考え方にあることが見えてきたことは第1部で整理したとおりである。

稚内において今後観光を振興していくためには、また、稚内に訪れる観光客を温かく迎え、稚内を十分に堪能してもらうためには、地域の人々が稚内市における観光の役割、位置づけを十分に理解し、地域が一体となって観光振興に取り組んでいくことが必要である。

このためには、人々を対象にした講演会や学習会を繰り返し実施することや、地域住民の参加による継続的な観光資源の見直しと、発掘等を推進していくなど、住民意識の醸成を図っていくことが必要である。

